

議 事 録

公開・一部公開・非公開			非公開 部 分 理 由		
市 長	副市長	部 長	文書管理責任者	保存期間	30()・10・5・3・1・随
課 長	館 長	係 長	係員		記録者所属 企画振興部 文化・スポーツ振興課 文化振興係 会計年度任用職員 大塚 みどり 印

会議等の名称	令和 6 年度 東御市総合交流促進施設 運営委員会	開催日時	令和 6 年 1 0 月 2 8 日（月） 午後 1 時 0 0 分～ 午後 3 時 0 0 分
		場 所	東御市役所 第三委員会室
主催者（事務局）	東御市 企画振興部 文化・スポーツ振興課 文化振興係	議 長	^{すみ} 角 りわ子（会長）
出席者 （敬称略）	委員：荒屋鋪 透、伊藤 羊子、梅野 亮、岡田 智恵、角 りわ子、三澤一実 計 6 名 事務局：井上 祐一、高橋 則幸、日向 大季、依田 竜之介、岡部 昌幸、佐野 悠斗、 山本 陸人 計 7 名		
欠席者 （敬称略）	委員：阿部 真也、保科 豊巳 計 2 名 事務局：小暮 絵里子、小沢 ^{なごみ} 和実 計 2 名		

会議事項	運営委員会の役割について (配布資料)
	役員の選任 別紙資料
	市長からの諮問
	(1)「令和 6 年度寄贈作品（案）」について 計 2 4 ページ
	(2)「令和 7 年度事業計画（案）」について
	報告事項
	(1) 令和 5 年度事業実績について
	(2) 令和 6 年度事業取組状況について
	(3) 梅野記念絵画館運営課題について
	(4) 東御市梅野記念絵画館収蔵品収集方針（案）について
	審議事項
	(1)「令和 6 年度取得作品（案）」について
	(2)「令和 7 年度事業計画（案）」について
	その他
	(1) 令和 8 年度以降の事業計画について

決定事項 (要点を簡条書き)	「令和6年度寄贈作品（案）」及び「令和7年度事業計画（案）」は妥当である。	
次回への検討事項		
次回開催	(日時) 令和7年 月 (場所)	
次第	発言者	内容
1 開会	井上部長	定刻となりましたので、令和6年度東御市総合交流促進施設梅野記念絵画館運営委員会を開会します。司会進行を務めます企画振興部長の井上と申します。よろしくお願いします。
2 委嘱書交付		お手元の次第に沿って進めます。最初に運営委員の途中退任に伴い3名の方に補欠委員の委嘱を行います。時間の都合上、委嘱書を補欠委員の皆様のお手元にお配りさせて頂いておりますが、代表いたしまして荒屋鋪透委員に花岡市長から委嘱書をお渡ししますので前へお進みください。
	花岡市長	(委嘱)
3 市長あいさつ	井上部長	皆様には後程、自己紹介をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。はじめに市長からご挨拶を申し上げます。
	花岡市長	(あいさつ)
4 運営委員会の役割について	井上部長	続きまして、次第4の運営委員会の役割についてです。これについては新たに委員になられた方がいらっしゃいますので改めて、事務局からご説明を申し上げます。
	高橋課長	(説明)
5 役員の選任	井上部長	続きまして、次第の5役員選出に移ります。昨年度末で岡部会長が退任され新たに梅野記念絵画館長に就任されました。また、梅野記念絵画館友の会の会長であり、梅野記念絵画館運営委員会の副会長でもありました御子柴様が退任されたことで会長と副会長が不在になり、改めて役員の選任をお願いするものです。会長につきましては条例施行規則第4条の規定によりまして互選によるものとされておりますが、いかがでしょうか。ご意見ありましたらお願いします。
	三澤委員	事務局から提案を頂けますか。
	井上部長	それでは、事務局からという発言がありましたので事務局より提案を申し上げます。会長は角りわ子委員にお願いしたいと思う

6 市長からの諮問		いますがよろしいでしょうか。
	委員一同	(異議なし)
	井上部長	ありがとうございました。皆さまのご賛同頂きましたので、会長に角りわ子委員を選任いただきました。それでは、会長は会長席に移動をお願いします。(移動) 早速で恐縮ですが、ご挨拶をお願いします。
	角会長	(あいさつ)
	井上部長	引き続き、副会長につきましても会長同様互選によるものとされておりますが、事務局から提案を申し上げてよろしいでしょうか。
	委員一同	(異議なし)
	井上部長	それでは、副会長に伊藤洋子委員、阿部真也委員にお願いしたいと考えますがいかがでしょうか。
	委員一同	(異議なし)
	井上部長	本日、所用によりまして阿部委員は欠席されておりますので伊藤委員は副会長席にご移動をお願いします。それでは、早速で恐縮ですがご挨拶をお願いします。
	伊藤委員	(あいさつ)
	井上部長	ありがとうございました。ここで、新任委員の方もいらっしゃいますので委員の皆様及び事務局に自己紹介をお願いしたいと思います。お手元に名簿がございますが、上段の阿部委員は欠席されておりますので荒屋鋪委員から順番に自己紹介をお願いします。
	全員	(自己紹介)
	井上部長	それでは、次第6 市長からの諮問に入ります。 今回の諮問は審議事項に記載されております「令和6 年度寄贈作品(案)」について及び「令和7 年度事業計画(案)」についてです。それでは市長より会長へ諮問を行います。
	花岡市長	(市長から会長へ諮問書を朗読)

	佐野学芸員	(資料により説明)
	角会長	只今の件につきまして、ご意見等ありましたらお名前の述べてからお願いします。
	伊藤委員	只今、ご説明のありました部活指導や中学校の地域活動と関連してですが、来年から千曲市で始まりまして、県内でも準備されていると思うんですが県でも先にスポーツの話になってしまい文化は難しい。美術はなかなか厳しいという話を伺っています。千曲市も組織というか全県に図れないものか、私どもも探している状況です。そういう中で今、梅野記念絵画館はどのようにしたか詳しく教えてほしいです。
	佐野学芸員	部活指導につきましては、美術部に入りましてデッサンの指導だったり、子供達の共同製作に対してアドバイスをしました。あとは、美術館の学芸員という立場から案内したりといったことを行いました。週に3日程度の回数になります。放課後、1時間程度または休日部活の日もあります。
	三澤委員	それに関して、11頁のボランティアについて以前、私が美術館に関わることが課題であると言い、近々の課題なので特に普及活動、子供や小中学生またはお年寄に対しても様々な活動が出来る中でそこに関わってくれる人達をいかに確保するのか、とても重要な課題だと思っています。その働きかけはされているのでしょうか。
	日向係長	美術館というよりは、東御市として丸山晚霞記念館館長の佐藤館長が東御市として市内の小中学校に教育普及のアウトリーチを仕掛けているんですけども、その中でボランティアの方は登録していただいて今4名位の方に稼働頂いて一緒に対話鑑賞を行っています。ただ、これは10年前からメンバーが変わっていませんので、そういう意味では募集をしっかりとやらなければならないのかなと思います。なかなか手がかりがつかめないというのが正直な所でございます。
	三澤委員	広報で募集するとか。やはり、退職して何かをやりたいと思っている方もいらっしゃるので、是非そういう方に美術館で活躍して頂けたらなと思っております。引き続き確保そして、そのボランティアの育成の為に研修を組み入れられて頂けたらと思います。

	日向係長	ありがとうございます。
	三澤委員	育成に関連して、これは以前私から学芸員の能力向上について発言させていただきました。今、お二人の方はどういう研修をされているのか、普段相談する方はいるのか教えていただけたらありがたいです。
	佐野学芸員	研修については参加出来ていない状態です。相談については去年まで学芸員をしていた日向係長にご相談する事が多いです。
	山本学芸員	私山本も同じ状況となります。
	三澤委員	貴重な人材なので、研修に力を入れて頂きたいと思います
	岡部館長	今、三澤委員が大事なことを言われて、私も駆け出しの学芸員だった頃に文化庁とかの研修があるんですよ。その時に全国の美術館の方と知り合いになる。そこで、しっかり勉強しなければならないんだけど、それって一生ものですよ。未だにそういう研修とか行き会って付き合っている。美術家の世界は非常に狭いでしょ。だから、この人を知っているという機会をどんどん持っていただきたいなと思います。
	伊藤委員	丁度、文化庁の募集が来ていますので、ご検討頂けたらと思います。 折角ですので、二つ程お聞きしたいんですけど市長のお話にもありましたが照明の改修というお話がありまして、今年の展示を見させて頂いたら見栄えするようになったかと、壁の改修の効果が非常に大きくて展示室の雰囲気がとてもよくなったと思いました。照明も早くなおらないかなと。時々ちらつく照明があり全体で直さないと直らない時もあるので、その計画がどんな感じであるのかをお聞き出来ればいいのかないかなと思いました。 あと、10頁にあったデジタルアーカイブに向けて準備を進めているということですが、具体的にどのようにされるかということをお教えいただきたいです。
	日向係長	施設照明の改修は、次年度起債事業を活用してLED化をしたいと思っています。開館して25年経ちますが、当時はいわゆる白熱灯を調光するシステムで無理やりLED球にかえていることで電圧の関係でチカチカしていました。スポットもそうなんですが、蛍光灯も含めた部分に着手したいと思っています。次にデジタルアーカイブについては、まだ本格的にというよりはデジ電活用もありますので、デジ電の補助金を使って何かしら出来ないの

		かなというところです。基本的には展覧会の度に作品の撮影が入りますので、そういったものはデジタル化して保存していくところを推進していきたいと思っていますところです。
	伊藤委員	宣伝になりますけれど岡部館長と三沢先生のお話で9頁（1）学芸員の取り組み方針に書かれていたように文化庁の研修を活用すると共に先ほどから申されていますシンビズムというものがあり、8年間で40万人の学芸員さんが参加されています。是非岡部館長をはじめ、佐野さん山本さんも参加してもらえようよろしくお願いします。
	梅野委員	11頁に友の会との協力体制とありますが、友の会は梅野隆が銀座にいる時の支持者が基盤で出来た会なんです。それが父が亡くなり初期の友の会も高齢化し、東京が主体でやっていたものが長野の東御の記念館なので東御のメンバーでやっていただけないかと。今のところ一点展というのは非常に珍しいコレクターのための展覧会なので、どこも集合美術館でやっていなく東御市の梅野記念絵画館だけがやっているのので続けていこうと館長と再来年梅野隆の百周年があるので、そこで一点展をとというお考えがありますので、その辺りも委員会で検討いただきたいと思います。友の会、他の美術館はどうやっているかわからないけれど、会報的なもの梅野記念絵画館はどうしたらいいのか運営委員会のメンバーにも聞いてみたいと思っております。よろしくお願いします。
	角会長	友の会の運営に関して、美術館の側から今後の方針なりありますでしょうか。
	高橋課長	元々、友の会という任意の団体そこに対して美術館のサポートという形で位置づけがありますが中々その所がすぐに行政ということにはならないと結論的には思っています。是非、会の中でも話し合いをするなかで行政の方もサポートしていける部分を模索していきたいと思えます。
	梅野委員	私から、別方向で説明させていただきます。美術館の友の会というのは、設置して運営するというのは数十年間一般的ではないんですけれども、運営に対して支援するという強い使命と協力体制がある。具体的に言えば、この一点展の運営をこの絵画館の目玉というのが売りである一点展を運営し、図録まで発行することも一切お任せして実質的に友の会はやっていて相当な金額的にも協力的にも支援があるわけなんです。この数年間こうした市の活動と友の会を認め、再来年になると思いますが、梅野隆初代館長の生誕100年もありますので見直ししながら整備をしていき

		いと思っております。
	荒屋舗委員	先ほど LED という話があり、私共の美術館でも岡倉天心の絵画館がありその美術館が LED 照明にすると普段より明るい。ルクスでいうと高い低いルクスでも色温度が明るく、この間金曜日に行って見てきたんですけれども、ドローイングの下絵類も非常に鮮明に見えますので予算的に大変でしょうが全然違うふうに見えます。驚きの照明だと思いますので是非観に行ったほうがいいと思います。
	高橋課長	ありがとうございます。
	梅野委員	特に青木茂の紙ベースの物に関しては、100 年以上経っておりますので普通だと展示出来ない。普通の美術館だとやめるくらいの物でございます。100 年以上経った紙を普通の照明を当てていると劣化して将来は見れなくなるのが目に見えています。当館にあるほとんどが紙ベースで油絵ではありませんので、紙ベースはよっぽど照明に気をつけないと今後維持出来ないことになると思います。その辺は学芸員さん、よく理解しておいていただきたいと思います。
	角会長	先ほど、友の会のことで折角岡部館長が色々とおっしゃって下さったので、他の茨城県美術館、上田の友の会のあり方はいかがかとお伺い出来ればお願いします。
	荒屋舗委員	友の会の会員数は多くて、一般が多い時期で 500 人位でその中の百数十名がボランティアでお願いして、任意団体というお言葉がありましたが美術館を支える、もう一つ経済的にもということであって県の予算以外に企業パートナーとかがあって、その中に会社だけではなくて友の会も入って頂いて、その中で予算化して頂いて普及事業とかに充てている。それで、1988 年に出来てもう直ぐ 40 周年記念になる時期なんです。本当に熱心に支えて頂いています。人間関係は信頼関係なんです。それから、美術館それぞれの微妙なバランスの人間関係なんです。おとなりさん。それを大事にしていくということは、やはり友の会というのを支えていく。僕もこの間、着任してすぐにボランティア講座をやってきて話をすると、すぐに吸収してそういうのが子供たちの教育と同じように年配の方達のコンタクトというか、とてもビビッと感じるのです是非ご苦労は多いとは思いますが。でも大事にして頂けたらと思います。
	角会長	若い方たちは、新しく入会していただけるんですか。

(4) 梅野記念絵画館収蔵品収集方針 (案)	荒屋鋪委員	それでもこの間のボランティア講座も見ていたら結構若い方達が入っておられたのでうれしかったですね。
	梅野委員	最盛期の友の会は 500 名以上いました。それが、コロナで半分位になっているというのが現状です。その辺を今後どうしていくのか、一番の問題になってくる。過度期なので岡部館長が参加されて岡部館長なりにいろんな考え方で友の会と出来ることを館として運営していかなければいけないと思っております。
	角会長	上田美術館はどうでしょうか。
	岡田委員	上田美術館は今年で 10 周年です。ちょうど 10 年前の設立の時に友の会という話が出なかった訳ではないんですけれども、美術館の先生もおっしゃった時代の有様というのが替わっている中で友の会という仕組みがすごく全国的に増えた時期があったと思います。10 年前の時点で新しい美術館で友の会というのが、これから先に果たしていいのであろうかということでスタートしています。先ほど、三澤委員がおっしゃった市民の方が関わる仕組み、サントミューゼ上田市立美術館統合施設でホールに美術館がございまして、その全体でボランティア組織というか、サポーターという仕組みを作ったかどうかという、そういうものはあるんですけれども、それを美術館の友の会とは、資質が違いまして上田市では、そういうものがないですしお話を聞きますと東御の友の会の有様とか経過とか存在感が全く違うものなのかなあと思いました。
	角会長	色々な友の会があります。検討内容があります。検討出来ればと思います。よろしくお願いします。 続きまして、(4) 梅野記念絵画館収蔵品収集方針 (案) について、お願いします。
	佐野学芸員	(資料により説明)
	角会長	只今の件に関しまして、ご意見等ありましたら挙手の上お名前を述べてからお願いします。何かありますか。
	荒屋鋪委員	私、時間があつたので先に見させて頂きました。どの作品も素晴らしい作品でした。やはりコレクションって、梅野記念絵画館らしさというのがひとつ必要かだと思うんですね。それは、理想ですけど「らしさ」というのは、私はずっと拝見していて出ているんじゃないかなと思っていました。作家のキャリアが出て

8 審議事項 (1)「令和6年度取得作品(案)」について	角会長 佐野学芸員 岡部館長	いる作品について、すべていいんじゃないかなと拝見して思いました。 続きまして、審議事項に入ります。 (1) 令和6年度、取得作品(案)について事務局から説明をお願いします。 (資料により説明) 一つ補足なんですけれども、学芸員と私との話はしていたんですけれども、行き違いだったと思うんですが、三番目の吉岡憲の作品の年代が34年頃って書いてあるんですけれども、それが20年位後の50年代というのは作風がかなり後期の作風になっているので、典型的な作風なので34年だとまだ学んでいるということになってしまいます。
2) 令和7年度事業計画(案)について	角会長 佐野学芸員 角会長	只今の件につきまして、ご意見等ありましたらどうぞ。 前回、収納庫が満杯で断ったことがあるんですけれども、問題がなければいいとは思いますが。作家としては、額が邪魔になっている。むき出して展示してくれたほうが作家の試みとか、作家は絵を書くとき額に入れてありませんから本来、絵を鑑賞するのには必要なかってことの疑問をもったほうがいいかなあ。絵の良し悪しを損じるような形が多いんですね。僕が見たときは非常に強く感じました。絵を新しく裸で見たら、新鮮な現代アートのように見えるのになあ。梅野記念絵画館の収納庫は、ご覧頂ければお分かりだと思うんですけれど、非常に工夫してあると思いますね。スペース的に。普通ですと仕様のラックを使ったりすると思うんですけれど。額についてはオリジナルの額縁というのは美術的に価値があるものですから、展示にはふさわしいか分からないので多くの館が展示の際の額装を考え直すことも多いと。特に版画とか写真だとそう思うのですが。収蔵庫のスペースも考えながら作品の調和とか、よろしくお願いします。 貴重なご指摘、ありがとうございます。では、次の項目に移ります。(2) 令和7年度事業計画(案)について事務局から説明をお願いします。 (資料により説明) 只今の計画について質問意見がありましたらお願いします。

9 答申	荒屋舗委員	企画展としては全国レベルで日本のアートを牽引していくか重要な画家だと思いますので、そういうレベルの方の展覧会が開催されていくということは、これからの梅野記念絵画館のありかた、おそらく先ほど梅野さんからもお話ありましたように三代のコレクション。青木茂を敬する愛というか、革新的な日本のアートを牽引しているといった方たちの収集で成り立った、出来上がったコレクションです。そういうコレクションを大事にすると同時にこれから新しい美術の方向を展覧会で繰り開いていくことが大事なことだと思います。
	岡部館長	補足しまして、佐野学芸員が元々大学で山田正亮を研究していたことがありましての発案です。佐野学芸員もこの絵画館のコレクションのことは充分承知の上で、それをうまく結び付けて新たな商戦と考えて育成という点でも、重要だと思います。私が来年の実現に際しまして、しっかり干渉しながら学芸員を育成するということで、この展覧会はいいいのではないかと考えて提出させていただきました。
	三澤委員	やはり、時代性は重要なのかなあ。その時代を理解出来る人は、この地域にどれだけいるのかということも含めて、共感と思想の波長のマッチがポイントだと思う。そこらへんが若い感覚でいろんな人達にアプローチ出来るような視点を伸ばしていけたらと思います。例えば、映像もあの時代はかなり残っているし、その映像を見るだけでも時代拝啓もわかってくる。そういう中で作品の意味に繋がる抽象という概念を構想をみているとおもしろいです。是非、頑張ってくださいと思います。
	角会長	ありがとうございます。 では、令和6年度取得作品（案）及び（2）令和7年度事業計画（案）について答申したいと思います。ご意見はございますか。
	全員	（異議なし）
	角会長	答申します。事務局で答申書を作成しますので休憩とします。 ありがとうございました。 事務局から答申（案）について朗読をお願いします。
	角会長	（答申の朗読） ありがとうございます。今、読み上げました答申書をお渡ししたいと思います。よろしいでしょうか。 では、以上で本日の審議は終了です。井上企画振興部長、お願

	角会長	いします。
	井上部長	ありがとうございました。 それでは、次第１０のその他について事務局から令和８年度以降の事業計画について説明させていただきます。 (資料より説明)
	佐野学芸員	その他、委員の皆様で何かございましたらお願いします。
	井上部長	
	荒屋鋪委員	２４頁の令和８年以降の事業計画ですがで常設展で梅野コレクション展を大展示室で絵画館コレクション展がありますが違いは何でしょうか。
	日向係長	常設展に於ける梅野コレクションは、梅野隆元館長のコレクションを中心に常設展を展開していきます。絵画館コレクション展は今まで展覧会を重ねてきた中で運営委員会の中でも寄贈され、ご承認頂いたものを含めて絵画館のコレクションとして展示していくという企画を考えております。
	三澤委員	先ほど、お話しした件で地域作品とありますが、是非年一回地域の作家や作品を取り上げて頂きたいと思います。やはり、美術館は地域の美術館としての地域の人に愛されることを考えていく上で、というようになるんですね。また、未来にこの地域から活躍出来る人を見たいわけでもありますし、地元の作家のリサーチを美術館の使命として今後計画をしていただけたらと思います。
	梅野委員	いづれにしても、友の会がある以上はネットワークを使いながら長野県の作家の情報を是非吸い上げていただきたいと思います。
	井上部長	ありがとうございます。それでは以上を持ちましてすべての議事が終了しました。伊藤副会長に閉会の言葉をよろしくお願いします。
	伊藤副会長	委員の皆様にごかれましては様々な角度から貴重なご意見ありがとうございました。令和６年度東御市総合交流促進施設運営委員会を閉会します。ありがとうございました。